

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000262		
法人名	株式会社リーガル不動産		
事業所名	リーガテラス京都洛西 桂の里		
所在地	京都府京都市西京区大枝中山町3-3		
自己評価作成日	平成31年2月3日	評価結果市町村受理日	令和元年5月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成31年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

京都市内でも静かな環境の洛西地域に立地しており、地域住民との距離が近く、積極的にボランティアなどに来て頂き毎月2回以上レク活動を行っている。
 また、施設内に併設している、小規模多機能型居宅介護との連携も密に行っており、外出レクや、施設内のレクなどでグループホームの入居者様、小規模多機能型居宅介護の利用者様同士の関りも深い。
 日々のケアでは、毎日散歩に出かけたい入居者様と共に散歩や買い物に出かけたり、体操や歌唱をして頂けるように、毎日1日の中で配置要件以上の職員が出勤しており、手厚い介護を行っている。
 職員の育成に関しては、実践者研修や管理者研修など事業所から受講費を出し積極的に受講を進めている。また、初任者研修や実務者研修は法人から補助金を出し、職員育成に努めている。事業所内で毎月内部研修を行っており、外部研修の開催にも注意しており、シフト調整を行い参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業者は開設一年目を迎え地域との交流が徐々に広がっています。地域交流室を開放し多くの利用を得ておりハーモニカ教室の方に利用者へ披露してもらったり、近隣の高校生のプラスバンドをはじめ毎月老人クラブの軽音楽クラブや創作教室、落語会などのボランティアの来訪を受けるなど交流を楽しんでいます。利用者が思い思いに過ごせるよう編み物や手作業をしたり、日々希望にそった散歩や花壇の水やりや玄関前での外気浴など日常的に外に出る機会も多く作り利用者の楽しみ事になっています。また、医療との連携体制を整え協力医の往診や訪問看護師による健康管理を受け、体調に変化があれば訪問看護師に連絡し指示を受けたり、随時協力医の往診を受けることもあり、本人や家族の思いにそって話し合いを重ね看取り支援にも取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも見える玄関ホールに事業所理念を掲示している。日々、確認しながら現場での実践に繋げている。	開設時に法人で作られた企業理念と施設理念を玄関に掲示し職員や来訪者が見えるようにしています。理念についての研修を予定しており、どのような施設を作りたいか自分たちの思いを職員間で出し合い、新たに作られたものを掲げたいと考えています。	開設一年が経ち職員と施設理念を基に考えることで理念の共有と実践に繋がることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と、積極的な交流を図り、馴染みのある関係性を築いている。	自治会には入っていませんが運営推進会議に自治会長の出席があり、地域の情報を得たり協力の依頼をしています。地域交流室を開放しハーモニカ教室に場所を提供し利用者へ披露してもらったり、毎月老人クラブの軽音楽クラブや創作教室、落語会などのボランティアの来訪を受けるなど交流を楽しんでいます。また近隣の高校生のプラスバンドの来訪もあり定例化していきたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを開催し地域住民の意見を聞き、認知症について理解していただけるように努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告や行事など利用状況を写真などで積極的に情報開示し、明るく開放的な施設を目指している。	会議は家族や自治会長、認知症家族の会々員、地域包括支援センター職員の参加を得て2か月毎に開催し、事業所の運営や状況、行事等の報告や介護計画の紹介等を行い、意見交換をしています。病院の理学療法士が行っているラジオ体操への参加等の提案があったり、次回は福祉用具事業所の職員の参加を得る予定としており、運営に活かして行けるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政への事故報告や、入居時、退去時の報告書を提出している。地域包括支援センターの主催する会議や、研修に積極的に参加している。	管理者は事業所の開設前から行政にわからないこと等を聞きに行き、開設後も運営推進会議の議事録を持参した際などにも聞いています。メールやファックスで研修案内がありできる限り参加したいと考えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し研修を定期的に行っている。	身体拘束に関する研修や委員会を行い職員の理解を深めるようにしています。言葉による行動の制止については都度注意をしたり、待ってもらった後の対応を大切にしています。玄関の施錠はしていますが、利用者に外に行きたい様子があれば一緒に散歩に出かけたり、ユニット間を自由に歩き来できるようにし閉塞感を感じないように配慮しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置し定期的な研修を行い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コンプライアンスについての勉強会を開催し、その中で法令順守等の話し合いを実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項説明書の説明を行い、同意して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時にはご様子をお話しさせて頂き、月末には状況報告を送付させて頂いている。	家族には日々の様子を手紙や写真で伝え、面会時や電話をかけた時、運営推進会議に出席があった時等に意見や要望を聞いています。個々の利用者のケアについての意見が多く個別に対応をしています。利用者からは日々意見を聞き外食レクリエーションに反映したり共有空間のテーブルの配置や座席の変更などを行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や、ユニット会議の中で意見や提案を出し合い、運営に反映させている。	管理者やユニットリーダーは職員が意見を言いやすいように日々関わり、職員から出された意見を集約しユニット会議やリーダー会議で話し合っています。洗濯後の衣類の配布間違いについて改善案が出されたり、感染症や物品等の委員から意見や提案が出され運営に反映しています。今年度は年に2回面談を予定し、また日々の様子を見て管理者やユニットリーダーが声をかけたり職員から相談に来るなど、個別に意見や思いを聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間のコミュニケーションを図り、サービスの向上を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加等を行い、さらなる向上を目指し積極的に職員育成を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間の意見交換や見学などを実践し、スキルを向上させ、安全、安心して頂けるサービスに努めます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	丁寧に面談を行い、ご本人とお話する中で、意向や希望に沿った安心した生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた時に、会話をすることで、入居者様について一緒に考えて頂ける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居者の状態を見ながら、ご家族とコミュニケーションを図り、必要な支援を考えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員のペースにならないように、ご本人のペースに合わせ居心地のいい関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に現状の報告を行い、一緒に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族へ面会や行事への参加のお声掛けをしている。これまでに通っておられた美容室に、ご入居も継続して利用できるように送迎などで支援している。	以前よく行っていた店へ飴を買いに行ったり河原での散歩、美容院への送迎を行い入居前の馴染みの場所へ行けるよう支援しています。友人や親せき等の来訪時には地域交流室を利用してもらいゆっくり過ごしてもらっています。また家族と墓参りに出かける方がいたり、携帯電話を持ちやり取りをしている方もおり馴染みの関係継続の支援を心がけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように、入居者同士で関わりを持てるように職員が間に入るなど支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人のご希望をお聞きし把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望をお聞きし把握に努めている。	入居前に施設などを訪問し本人や家族と面談を行い、生活歴や趣味、好み、生活全体の意向、介護サービスに対する意向などを聞いています。入居後は日々の関わりの中で新たに知ったことや気付き等を記録に残し、また意思疎通が困難な場合は家族に聞いたりカンファレンスで話し合いながら希望や意向の把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、面会時にご本人やご家族に希望や意向を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご自身で出来ることは、見守りながら行って頂き、無理のない程度に、ADLの維持向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームで意見交換を密に行い、計画書に反映し、作成している。	本人や家族の思い、アセスメントを行い介護計画を作成しています。個々の利用者の状況に応じて3~6か月の期間を決めて見直し、見直しの際には再アセスメントを行い、カンファレンスで話し合っています。面会時に家族から意向を聞いたり、往診時や訪問看護の来訪時の情報を加味して介護計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子や、バイタル、排便、水分量等の記録をし、状態変化を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のお気持ち、ご家族のお気持ちに寄り添い、柔軟に対応できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の理美容の利用や、近くのコンビニ、ドラッグストアで買い物の支援をしている。またボランティアに来て頂き地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に往診医のご希望を伺い、特になければ事業所の協力医療機関を紹介している。医師の往診は週に2回、看護師の訪問は毎週実施して頂いている。医師、看護師ともに夜間帯オンコールで対応して頂いている。	入居時にかかりつけ医を継続できることを説明し、継続する方は家族の受診対応を基本としており、家族が行けない時には事業所で支援しています。24時間対応可能な協力医の往診が月に2回あり、また2週間に1度の訪問看護師による健康管理を受け、体調に変化があれば訪問看護師に連絡し指示を受けたり協力医と連携し往診を受けることもあります。希望に応じて訪問マッサージや訪問歯科による治療や口腔ケアを受け、眼科などの専門医への受診は事業所で支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回、訪問看護ステーションの看護師に来て頂き、相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関があり、情報交換をし関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後、状態の変化について説明し、ご家族から終末期について意向を確認している。開設後一年経過していないが、看取りも経験している。主治医、訪問看護師と連携し、ご家族、ご本人の希望を踏まえ、安楽な看取りが実施出来るように、支援体制を整えていきたい。	入居時に重度化した場合の対応について説明を行い、実際に食事が摂れなくなった時などに改めて医師や家族、職員、時には看護師と話し合い、事業所でできる支援について説明し方針を決めています。家族の意向を大切に、分からないことなどは看護師に聞きながら医療との連携を図り看取り支援に取り組んだ経験もあります。また看取り支援についての研修も行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置している。急変時や事故発生時の研修やマニュアルを作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練や避難訓練を実施し、非常時のマニュアル作成し、職員に周知している。	年に2回行う消防訓練は消防署立ち合いの下、昼間を想定し通報や初期消火、利用者も参加して避難誘導の訓練を行っています。会議の中で夜間の避難について伝えたり、訓練を行うことを運営推進会議で伝え実施後報告しています。また備蓄については法人に申請し準備中です。	運営推進会議で地域の防災訓練の情報を得たり協力依頼をする等協力関係の構築に向け話し合われてはいかがでしょうか。また夜間を想定した訓練の実施や備蓄の整備が整えられることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格、プライバシーを尊重し、声掛けや介助方法など職員間で話し合いながら行っている。	人権や接遇マナー、プライバシー保護に関する研修を入職時や全体会議に行い、接遇委員会からも機会を見つけて注意喚起をしています。敬語を基本としていますが、堅苦しくならず強い口調にならないように配慮しています。命令口調や幼児語、自尊心を傷つけるような対応等不適切な対応があれば、職員間で注意し合ったり管理者やユニットリーダーが注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をしたいのか、どうしたいのかをお聞きしながら、ご本人が決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おひとり、おひとりのペースで暮らしていけるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに応じたおしゃれが出来るように、起床の更衣時や入浴前にご自身で選んでいただいている。また、衣服の購入時にご家族にもご協力頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物を取り入れたり、出来ることを無理のない範囲でして頂いている。	食事は業者からチルド状態で届き温めて提供し、利用者には盛り付けや米とぎ、味見などのできる事に携わってもらい、職員も一緒に食べています。月に1~2回は利用者の希望も聞きながらお好み焼きや鍋料理をしたり、桜餅やホットケーキなどの手作りおやつを楽しんでいます。また家族との外食の他、職員と寿司を食べに出かけたり喫茶店に行く等の支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録を行い、状態に合わせて提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや介助にて、口腔ケアを行い、義歯の方はポリドントを使用し清潔にしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おひとり、おひとりの状況に応じて、お声掛けや介助を行っている。	各居室にトイレがあり、日々の記録から排泄パターンを把握し個々の利用者のタイミングでトイレに行けるよう支援しています。入院などでおむつ使用となった方も退院後は元の状況に戻れるよう支援し、布の下着や紙パンツに変更した方もいます。カンファレンスで個々に合った支援方法や排泄用品の選択を話し合い、できる限り自立に向かうよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	無理のない範囲で身体を動かして頂いたり、水分摂取を促すなど、予防、改善に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る範囲で入居者のタイミングに合わせてるように努めている。	入浴は週に2回午前中を基本に支援し、状況によっては午後からの入浴や機械浴を利用しています。拒否する方にはタイミングや声掛けを工夫し無理のない入浴に繋げています。希望があれば同性介助で対応し、好みのシャンプーやリンスを持参している方もおり、一人ずつ湯を入れ替えゆっくりとコミュニケーションを図りながら入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンを把握しご自身のタイミングで眠れるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をファイリングし、薬の増減や変更等の共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの出来る事や、好きな事したいことを見つけ、生活の中で気分転換して頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気のいい日は近くの川などにお散歩に出かけ、また施設内の花壇を見に行っている。ご家族との外出支援も行っている。	日々散歩に出かけており希望に応じて雨の日も出かけることもある他、花壇の水やりや玄関前での外気浴など日常的に外に出る機会を作っています。また初詣や花見、紅葉狩りに出かけたり、植物園に行くこともあり、季節を感じられるような外出行事を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の中で、美容室やコンビニ、ドラッグストアなど、能力に合わせ支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	依頼があった際は電話をして頂けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心掛け、レク写真などを掲示し、会話が弾み居心地のいい空間つくりになるように工夫している。	ユニット毎に利用者と一緒に作った季節の飾りを行い、時には生花を飾ることもあります。行事や日常の様子や表情が見えやすいような写真や書道などの作品を掲示しています。利用者の関係性に配慮しテーブルの配置や座席を決めたり、ソファや椅子を置き少人数で過ごせるように配慮しています。毎日換気や掃除を行い清潔を保ち、加湿器を設置したり空調で温湿度管理を行い快適に過ごせるよう支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者が楽しく過ごせる雰囲気や空間づくりをする様に工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみの物や好きな物を使用して頂き、安心して生活できるようにしている。	各居室にはトイレと流し台があり個々のペースで過ごせるよう配慮され、お茶を入れて飲めるように電気ポットやカップを持って来ている方もいます。入居時に使い慣れた物を持って来てもらうよう説明し、タンスや椅子、テレビ、大きなベッド、大切にしている仏壇など持参し家族が配置を決めています。趣味の将棋や本、折り紙等を持って来たり、ぬいぐるみや家族の写真を飾りその人らしい居室となっています。じゅうたんや畳を敷いている方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事を見つけ、お声かけ、見守りしながら無理せず、楽しく行って頂けるようにしている。		